

金沢東高卒業式

理事長告辞（抜粋） 「意志あると

ころに道あり」は、強い意志を持って努力を重ねれば、きっと道は開けるという意味です。大事なものは夢や目標をしつかり持ち、強い意志で努力を積み重ねること。松井秀喜選手は、長嶋監督の指導を実行して、毎日の練習を人の十倍してきました。人間は弱いもので、「明日から始めよう」としても絶対にスタートしません。高い目標を立て過ぎて途中で挫折してしまいます。「ロームは一日にしてならず」なのです。



めよう」としても絶対にスタートしません。高い目標を立て過ぎて途中で挫折してしまいます。「ロームは一日にしてならず」なのです。

共生の心を大切に

校長式辞（抜粋）

人生の大きな節目に三つのことを話したい。第一は「生涯学び続ける気持ちと態度を身に付けること」。正しい判断を下すためには知識、技術、経験が必要です。第二は「共に生き、よく生きる『共生』の心を持つてほしい」。社会の一員として、ルールやマナーを守り、感謝の気持ちを忘れないでください。



第三は「何事にも失敗を恐れず積極的に取り組む姿勢を持つてほしい」。たくましい精神力が求められるのはスポーツ選手に限りません。

夢と目標持ち努力せよ

298人晴れの門出

金沢東高校の第五十一回卒業証書授与式は三月一日、金沢市の石川厚生年金会館で行われ、卒業生二百九十八人が晴れの門出を迎えて、決意を新たにしました。ロビーでは美術文化コースの初めての卒業制作展も開かれました。作品には三年間で磨いた感性があふれ、卒業式に華を添えました。



式辞を述べる石田校長「石川厚生年金会館

クラスごとに担任が卒業生の名前を読み上げ、石田毅四郎校長が総代の岡田健太郎君に卒業証書を手渡しました。石田校長が式辞で「ふるさと石川を大切にすることをいつまでも持ち続けてほしい」と述べ、飛田秀一学校法人金沢学院大学理事長が告辞で激励の言葉を贈りました。

齊藤千佳子同窓会会長の祝辞に続いて在校生代表の梶川健太君（二年）が「先輩たちに創っていたいただいた伝統を守り、更なる発展を約束します」と送辞を述べました。卒業生総代の吉本奈美香さんが答辞で「自立への道を歩み始めますが、この先、大きな壁にぶつかったとしても、先生方の教えや、仲間と過ごした思い出を糧に、夢に向かって前進します」と誓いました。式では、校長褒賞として三か年皆勤賞の二十二名（代表・岡野定孝裕）、教科外活動特別功労賞・功労賞・努力賞の計三十九名（特別功労賞松本明子）と、日本私立中学校連合会会長賞の石田美雨さんが表彰されました。



答辞を読む吉本さん



卒業証書を授与される岡田君

東高運動部が合同研修

金沢東高校の運動部冬季合同研修は一月二十九日と二月十九日に行われ、エアロビクス、トレーニングとストレッチ「写真」、テニシングについて実践を交えて体験しました。学校の活性化は運動部の連携と活躍からとの狙いで初めて行われました。



学院大卒業生が富山県の教員に

平成十二年三月に金沢学院大学文学部日本文学科を卒業した嶋田優紀美さんが十七年度の富山県教員採用試験に合格し、中学校の国語教員として教壇に立つことになりました。これで新年度から公立学校の教員に採用が内定したのは石川県二人、長野、鹿兒島、富山県各一人の計五人となりました。

発行・広報室